



2022年3月期 第1四半期
決算補足資料

証券コード:6908

2021年8月3日

イリソ電子工業株式会社



I . 2022.3期 第1四半期連結決算概要

II . 2022.3期 連結決算見通し

III . トピックス

1. 2022年3月期第1四半期 業績のポイント



半導体不足の影響で欧米中心に車載市場でマイナス影響はあったものの、車載パワートレイン分野、コンシューマー市場、インダストリアル市場が堅調に伸び、四半期での過去最高売上を更新。

■売上高:11,186百万円(前年同期比191.7%、20年3月期第1四半期比111.4%)

①オートモーティブ(車載)市場 :8,778百万円(前年同期比198.0%)

・特に電動化関連の車載パワートレイン分野は前年同期比280%、売上構成比11.3%と初の2桁台へ成長。

・半導体不足の影響:欧米中心に自動車生産が減産。当初計画に対し約-4.5億円の影響。下期以降挽回が見込まれるが、2021年の自動車生産は当初想定した8,600万台より下振れの可能性もあり。

②コンシューマー市場 :1,361百万円(前年同期比163.7%)

③インダストリアル市場:1,047百万円(前年同期比183.1%)

■営業利益:1,264百万円、営業利益率11.3%

(前年同期比+1,659百万円、20年3月期第1四半期比-133百万円)

①原材料の金、銅並びに樹脂等市況品高騰と輸送費高騰により、約6億円(営業利益率約5.3%)の悪化影響を、操業度増並びに原価低減により改善。

②2月にロックダウンにより操業停止したベトナム工場は正常稼働中。
ただし、停止中分の挽回生産に加えて需要が旺盛なため緊急発送を実施。
(①の輸送費増加分に含まれる)

2. 2022年3月期第1四半期連結業績(前年同期比)



単位:百万円

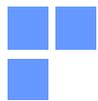
	21.3期 第1四半期	22.3期 第1四半期	前年同期比
売上高	5,836	11,186	5,350 191.7%
営業利益	△395 (-%)	1,264 (11.3%)	1,659 -%
経常利益	△410 (-%)	1,207 (10.8%)	1,617 -%
親会社株主に 帰属する 四半期純利益	△432 (-%)	1,052 (9.4%)	1,485 -%
EPS	△18.37円	44.64円	
為替レート 期中平均	ドル:107.74円 ユーロ:118.94円 元: 15.16円	110.00円 131.78円 17.01円	2.26円 12.84円 1.85円

3. 売上高詳細(市場別)

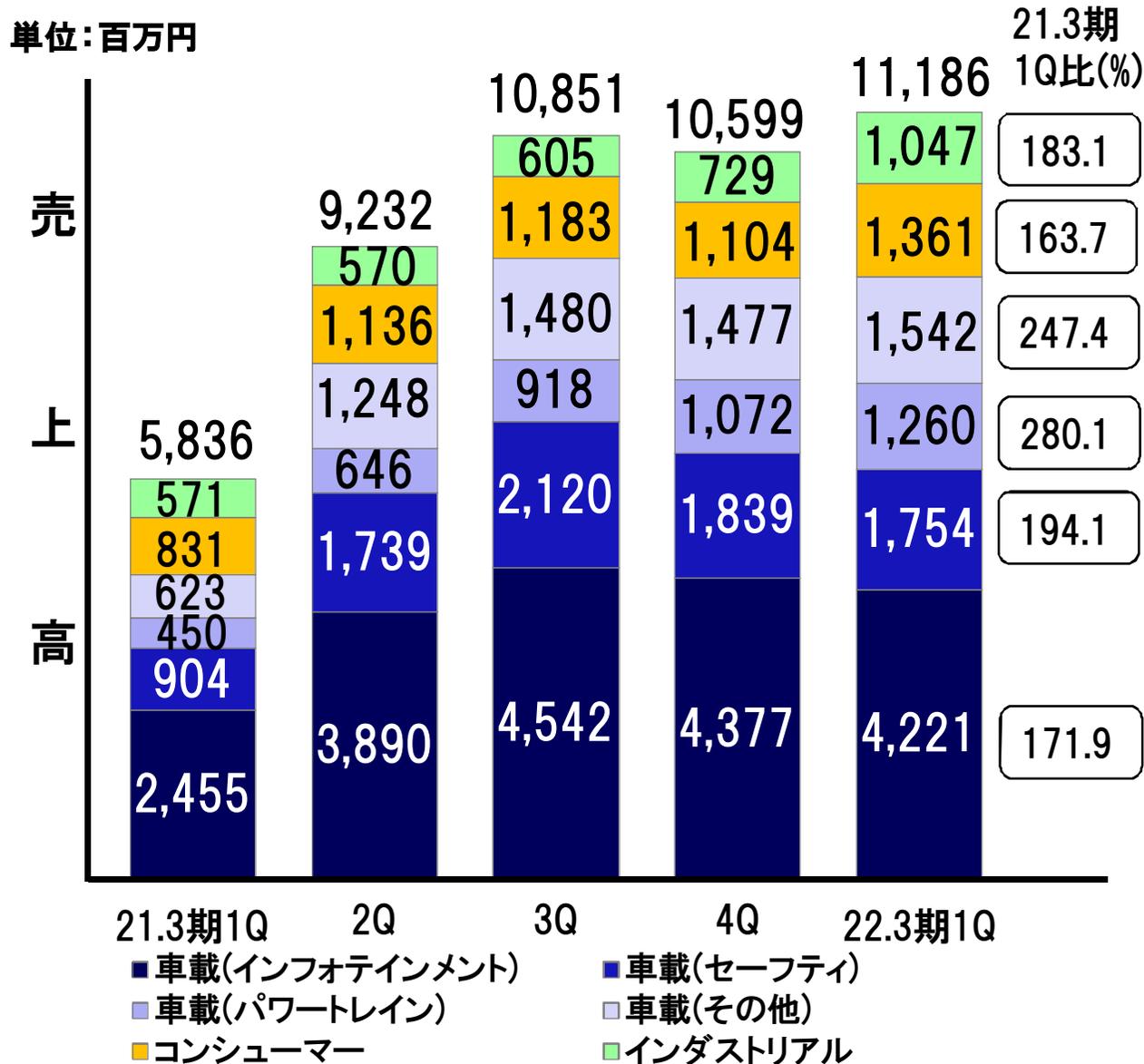


単位:百万円

		22.3期 第1四半期	前年同期比	構成	増減要因
オートモーティブ(車載)		8,778	198.0%	78.5%	<ul style="list-style-type: none"> ・前期1Qの新型コロナウイルスによる欧米を中心とした自動車生産・販売の低迷から大幅回復 ・パワートレイン分野は環境対応車が欧州と中国向けを中心に需要が増加しており、前年同期比180%増と好調
区分	エンターテインメント	4,221	171.9%	37.7%	
	セーフティ	1,754	194.1%	15.7%	
	パワートレイン	1,260	280.1%	11.3%	
	その他	1,542	247.4%	13.8%	
コンシューマー (OA、ゲーム機、デジカメ、携帯電話、TVなど)		1,361	163.7%	12.2%	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍での巣ごもり需要により、ゲーム機向け、テレビ向けが好調を維持
インダストリアル (産業機器など)		1,047	183.1%	9.3%	<ul style="list-style-type: none"> ・中国向けのFA関連機器の需要増、5G基地局向けでの新規搭載により好調
合計		11,186	191.7%	100.0%	<ul style="list-style-type: none"> ・海外比率75.8%



4. 市場別売上高(四半期推移)



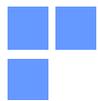
インダストリアル
 ・四半期最高売上更新

コンシューマー
 ・ゲーム、テレビ向けが牽引

車載全体 198.0

・21年3月期4Q比:
 半導体不足の影響で欧米を中心に減産。インフォテインメント、セーフティ分野で影響あり。

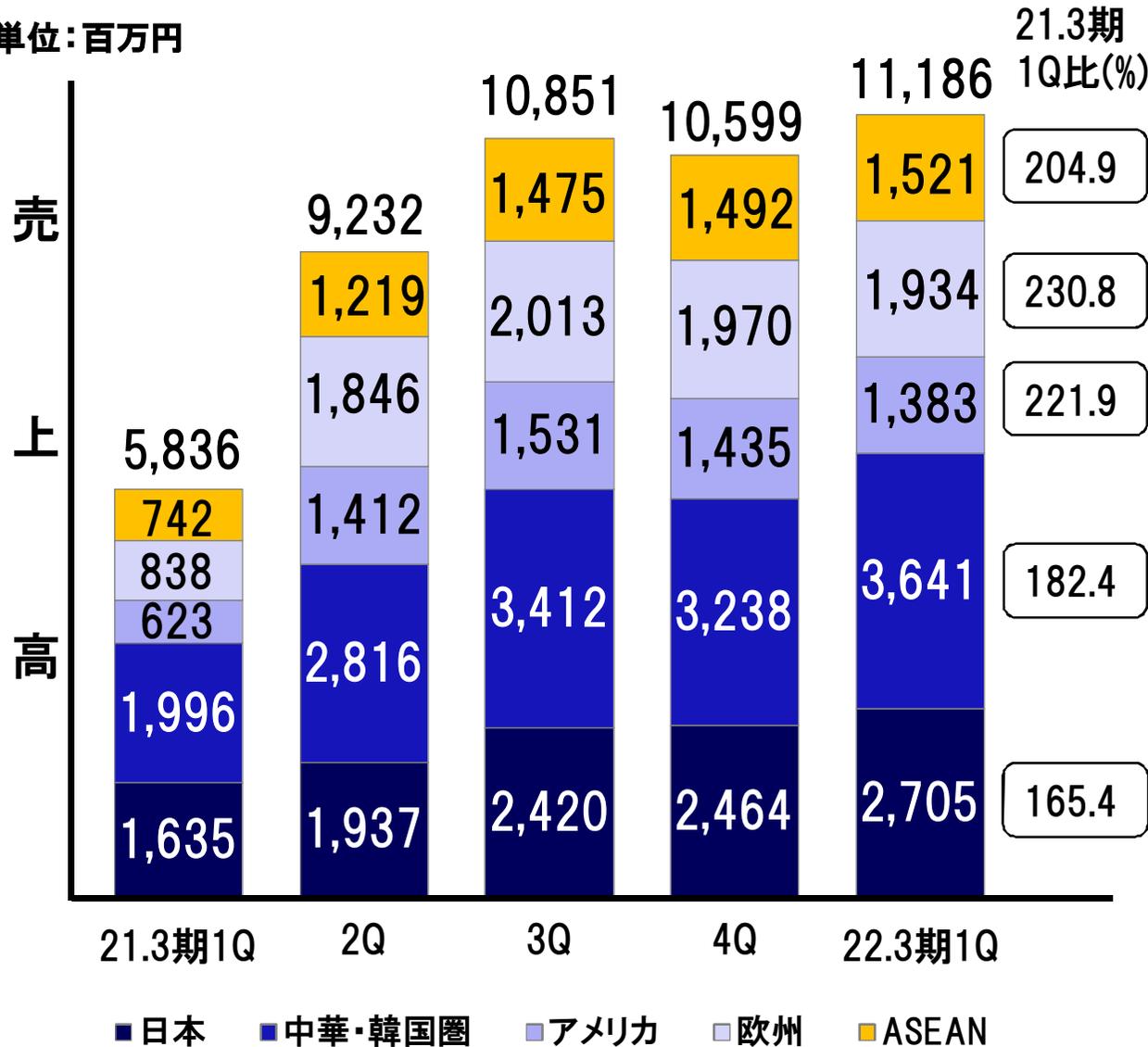
・注力しているパワートレイン分野は好調を維持し、四半期での最高売上を更新。環境対応車の需要増加に伴い、バッテリー関連や外部給電用のインバーター向けが牽引



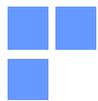
5. 地域別売上高(四半期推移)



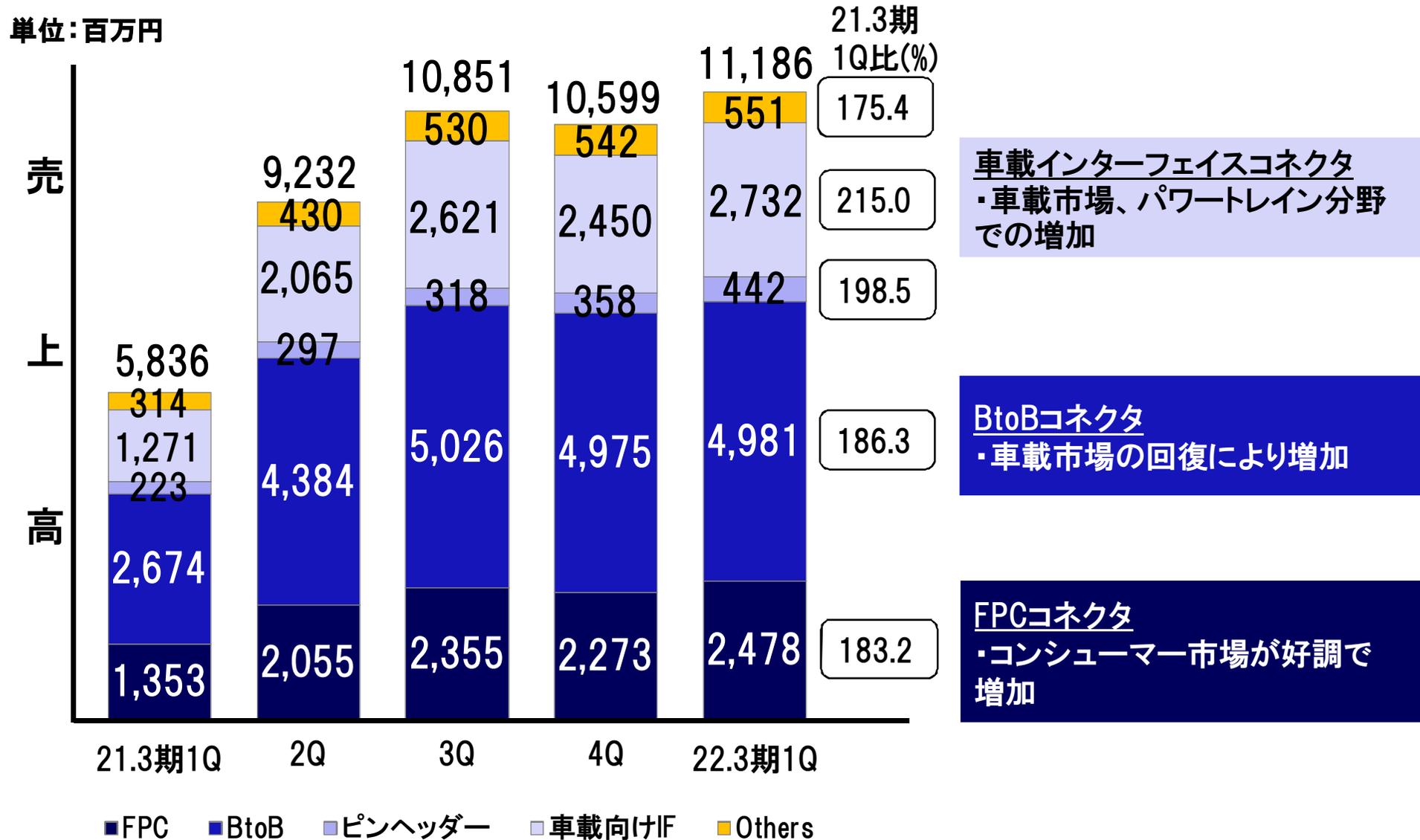
単位：百万円

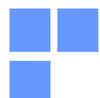


- ASEAN(旧シンガポール+タイ)**
 - ・コンシューマー市場が好調
- 欧州**
 - ・21.3期4Q比：半導体不足の影響で減少
 - ・為替円安で押し上げあり
- アメリカ**
 - ・21.3期4Q比：半導体不足の影響で減少
- 中華・韓国圏**
 - ・パワートレイン分野とコンシューマー市場を中心に好調を維持
 - ・為替円安影響もあり、過去最高売上更新
- 日本**
 - ・パワートレイン分野、インダストリアル市場が好調
 - ・過去最高売上更新



6. 製品別売上高(四半期推移)





7. 損益計算書(連結)(前期比)



単位:百万円

	21.3期 第1四半期	22.3期 第1四半期	前年同期比
売上高	5,836 100.0%	11,186 100.0%	5,350 191.7%
売上原価	4,239 72.6%	7,371 65.9%	3,131 173.8%
売上総利益	1,596 27.4%	3,815 34.1%	2,219 239.0%
販売管理費	1,992 34.1%	2,551 22.8%	559 128.1%
営業利益	△395 △6.8%	1,264 11.3%	1,659 - %
営業外収益	34 0.6%	24 0.2%	△10 69.8%
営業外費用	49 0.9%	81 0.7%	31 163.7%
経常利益	△410 △7.0%	1,207 10.8%	1,617 - %
特別損益	△38 △0.7%	△35 △0.3%	3 91.8%
税前利益	△449 △7.7%	1,171 10.5%	1,620 - %
親会社株主に帰属する 四半期純利益	△432 △7.4%	1,052 9.4%	1,485 - %
E P S	△18.37円	44.64円	-
為替レート	107.74円/	110.00円/	2.26円/
(ドル/ユーロ/元)	118.94円/15.16円	131.78円/17.01円	12.84円/1.85円

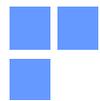


8. 貸借対照表(連結)(前期末比)



単位:百万円

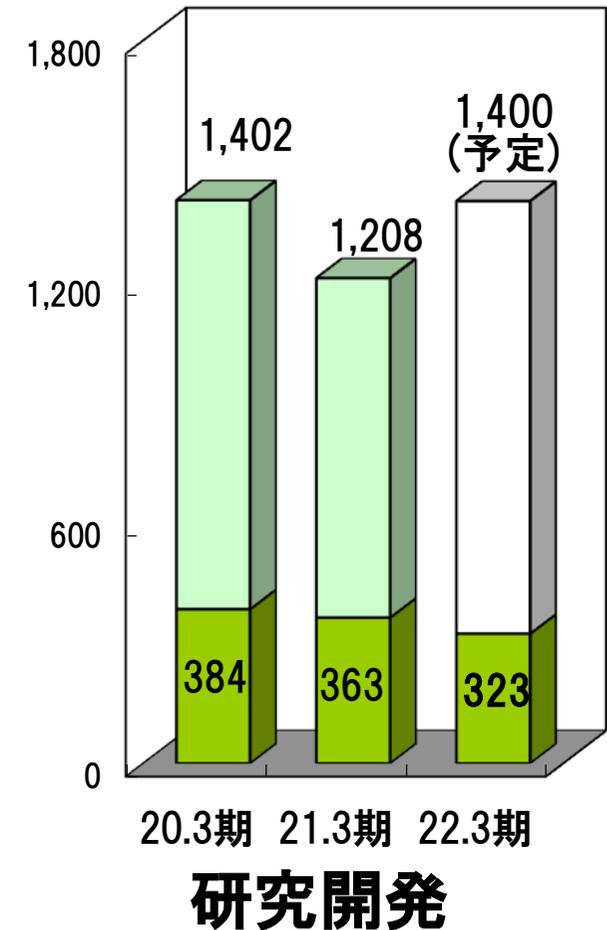
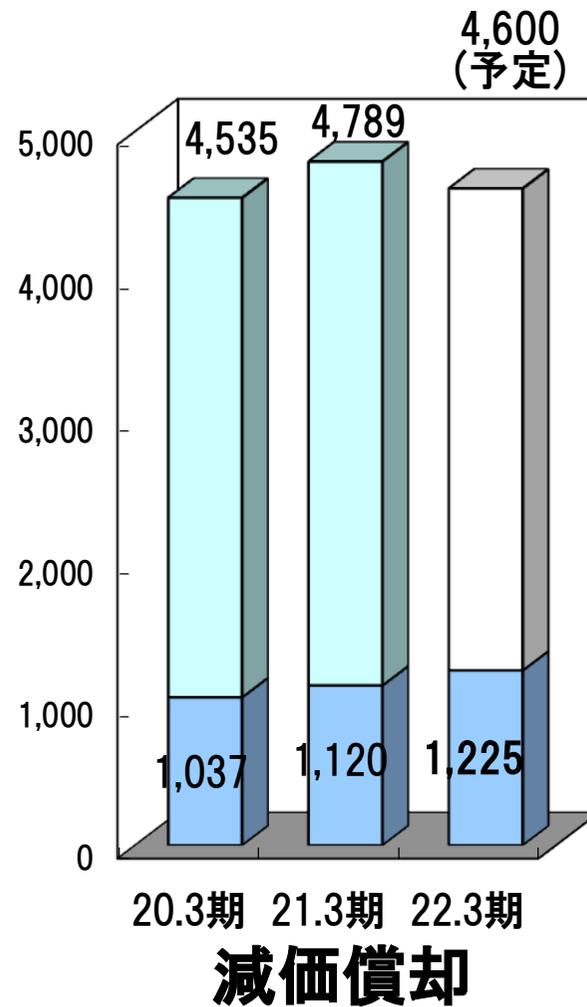
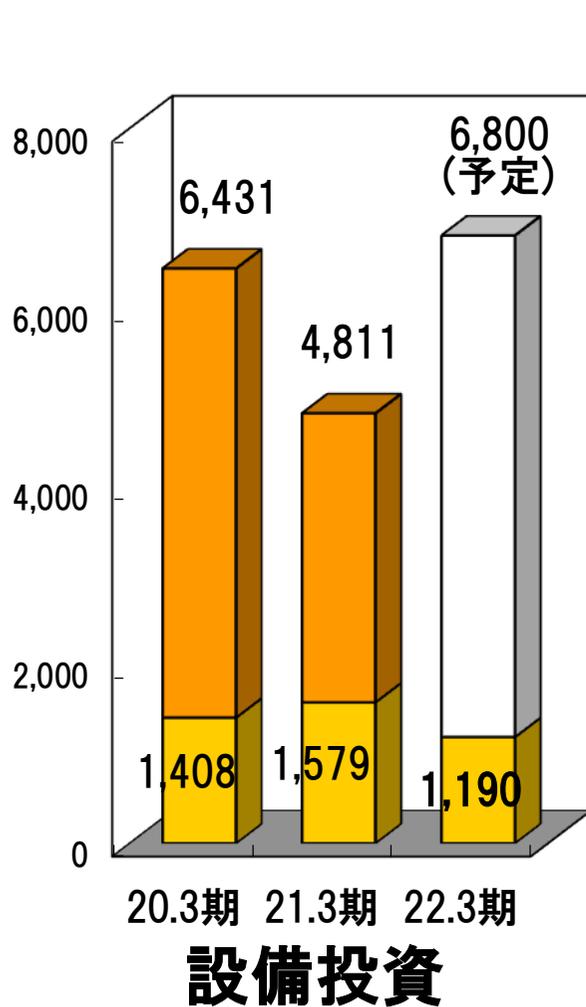
	21.3期		22.3期 第1四半期		前期末比	要因
流動資産	35,209	55.1%	35,752	55.0%	542	現預金 $\Delta 914$ 売掛債権 518 商品及び製品 807
固定資産	28,732	44.9%	29,216	45.0%	484	建設仮勘定 340
資産合計	63,941	100.0%	64,969	100.0%	1,027	
流動負債	7,956	12.4%	8,850	13.6%	893	買掛債務 574 未払金 209
固定負債	1,254	2.0%	1,252	1.9%	$\Delta 1$	
負債合計	9,210	14.4%	10,102	15.6%	892	
株主資本	52,176	81.6%	52,031	80.1%	$\Delta 145$	純利益 1,052 配当 $\Delta 1,183$
その他の 包括利益累計額	2,171	3.4%	2,468	3.8%	297	為替調整勘定 300
非支配株主持分	382	0.6%	365	0.6%	$\Delta 17$	
純資産合計	54,731	85.6%	54,866	84.4%	134	1株純資産 2,311.57円 (前期末 2,306.16円)
負債・純資産 合計	63,941	100.0%	64,969	100.0%	1,027	



9. 設備投資・減価償却・研究開発



単位：百万円



注：各グラフの数値は、下段に第1四半期累計の実績、上位に通期での実績(22.3期は予定)を記載



I . 2021.3期 連結決算概要

 II . 2022.3期 連結決算見通し

III . トピックス

1. 2022年3月期 計画(前期比)と事業リスク対応

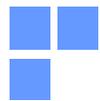


単位:百万円

	21.3期 累計	22.3期 計画	前期比
売上高	36,520	42,000	5,479 115.0%
営業利益	2,900 (7.9%)	6,700 (16.0%)	3,799 231.0%
経常利益	2,970 (8.1%)	6,600 (15.7%)	3,629 222.2%
親会社株主に帰属する 当期純利益	2,141 (5.9%)	4,800 (11.4%)	2,658 224.1%
EPS	90.89円	203.68円	
為替レート 期中平均	ドル:106.17円 ユーロ:123.73円 元: 15.63円	105.00円 127.00円 16.00円	△1.17円 3.27円 0.37円

期初計画に対し、半導体不足影響はあるが、全体の受注状況は好調に推移。一方、原材料費並びに運搬費の高騰が想定以上となっており、以下の追加改善施策を推進。

施策	効果
①製造経費、運搬費等のロスコスト削減 ②経費削減 ③内製化推進、資材費値上げの抑制他	約10億円



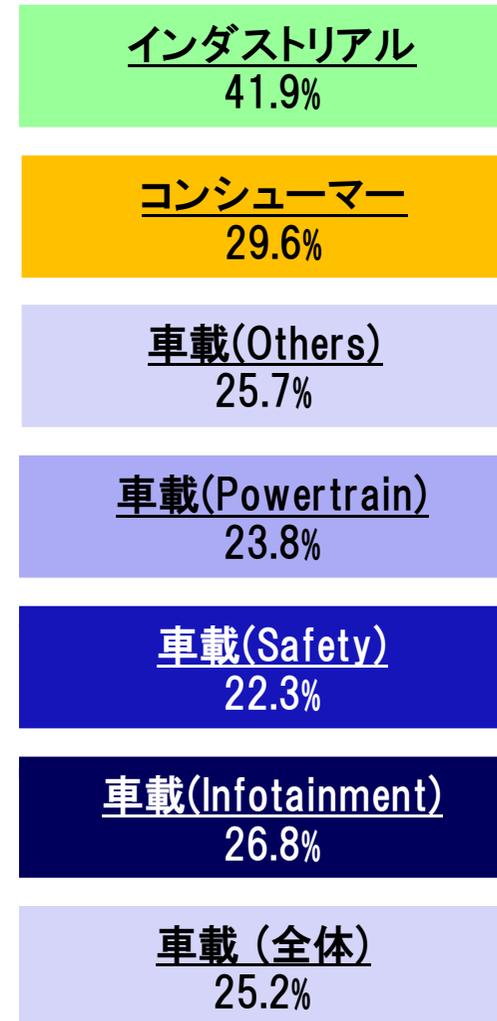
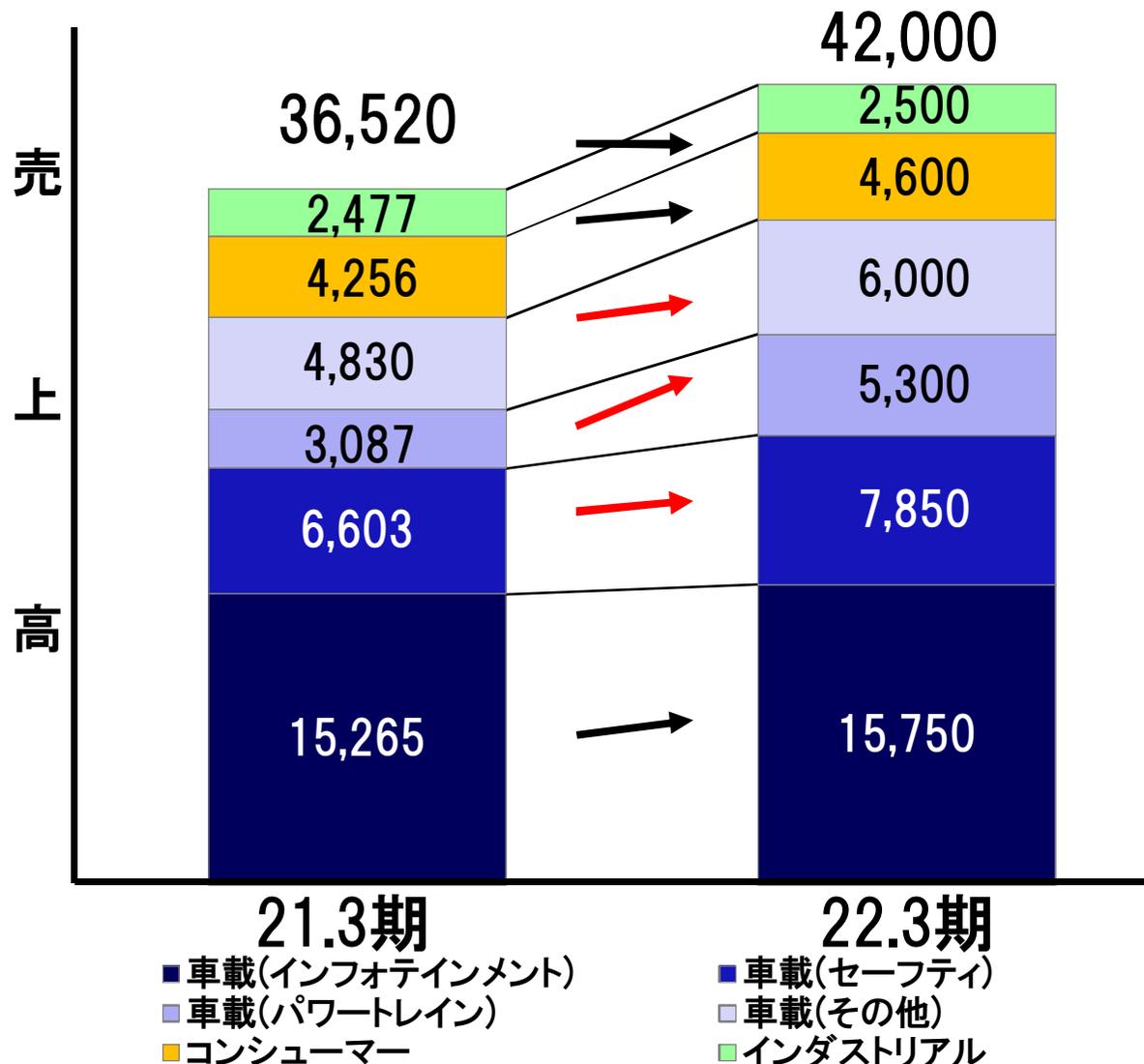
2. 2022年3月期 市場別売上高計画(再掲)



単位:百万円

単位:百万円

22.3期計画比1Q実績進捗率





I . 2022.3期 第1四半期連結決算概要

II . 2022.3期 連結決算見通し

III . トピックス



1. トピックス:BCP対応の進捗状況

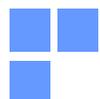


■2021年2月のベトナム工場ロックダウンをきっかけとして、BCP対応方法の見直しを開始

- ①第1段階:在庫体制の見直し→在庫の増量:イリソと顧客で3か月保有が目標
 - ・イリソ販売子会社在庫:安全在庫確保のために増加中。
【商品及び製品】2021年3月末51億円→2021年6月末59億円へ。

- ②第2段階:流動製品の設備配置の見直し→スペア設備の配置
 - ・スペア設備の仕様変更内容決定済。
 - ・3Q中に各スペア設備の設計完了予定。その後、順次製作・配備へ。

- ③第3段階:流動製品の生産体制の変更→マルチ生産へ
 - ・売上トップ100の製品シリーズのうち重点約10シリーズから着手し、1Q中に完了済。
 - ・今後は残りのシリーズも展開していく。



2. トピックス:CO2削減に向け太陽光パネルを設置



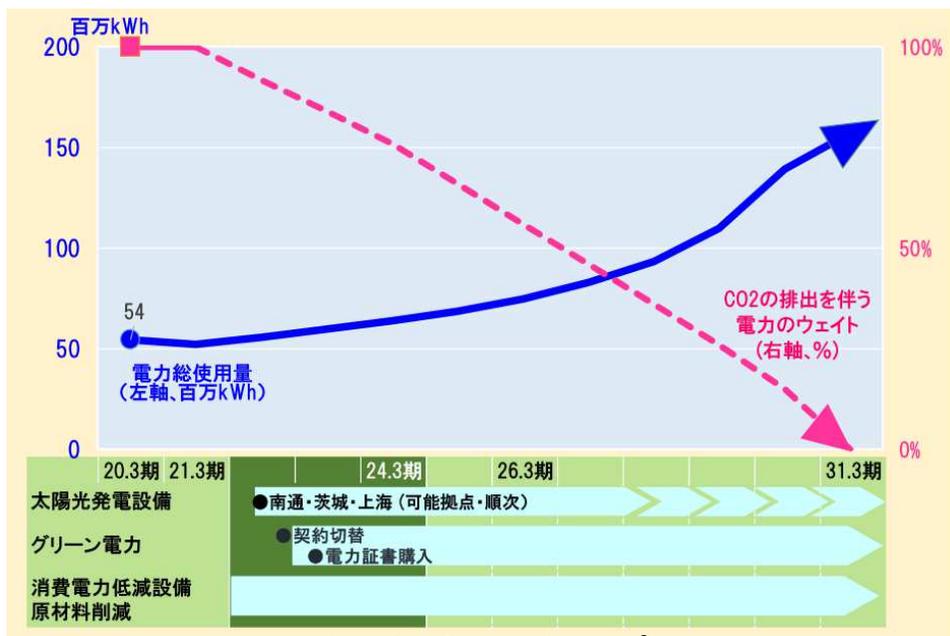
■CO2削減目標:2030年までにイリソ施設で自己消費するエネルギーのゼロエミッション達成

→削減ロードマップを作成し、各拠点に太陽光発電設備を順次設置。

→今期中に設置を完了させるべく取り組んで参ります。

拠点	状況
茨城工場(日本)	設置完了
南通工場(中国)	2021年9月完了予定
上海工場(中国)	2022年3月までに完了予定

※ベトナム工場とフィリピン工場は耐荷重の問題により、設置不可



CO2削減ロードマップ



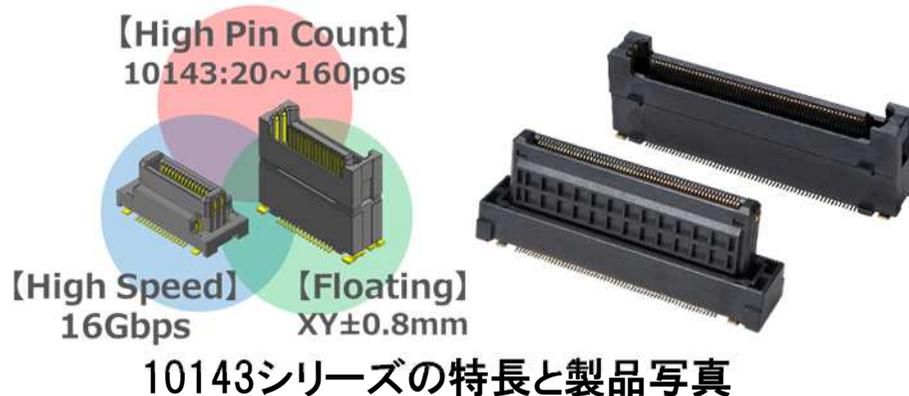
茨城工場設置太陽光パネル

3. トピックス: 高速伝送対応製品の開発秘話公開



■ 「16Gbps対応 電源用端子つき可動BtoBコネクタ」: 10143シリーズ

- ・イリソの強み「可動」に高速伝送対応を掛け合わせた差別化製品。
- ・車載機器、産業機器、5G基地局などの機器で基板間高速伝送を実現する、16Gbpsの高速伝送とx,y±0.8mmという大きな可動量を併せ持つ、世界初の可動BtoBコネクタです。
- ・この製品の開発秘話をマンガにして当社HPに公開しました。全3話構成で、9月までに完結予定です。是非ご覧ください。
(<https://www.iriso.co.jp/jp/technology/comic/>)



開発秘話マンガの一場面

会 社 名	:	イリソ電子工業株式会社
事 業 内 容	:	各種コネクタの製造・販売
設 立 年 月	:	1966年12月
社 員 数	:	3,277名(2021年3月31日現在)
資 本 金	:	5,640百万円(2021年3月31日現在)
本 社	:	神奈川県横浜市港北区新横浜2-13-8
営 業 拠 点	:	
国 内		本社、福島県、茨城県、愛知県、大阪府
海 外		シンガポール、香港、アメリカ、ドイツ、タイ、韓国 中国（上海、大連、天津、蘇州、深圳、重慶）、マレーシア、 台湾、インド
研 究 開 発	:	本社(イリソテクノロジーパーク)、 川崎(生産技術センター)、上海R&Dセンター
工 場	:	茨城県、中国(上海、南通)、フィリピン(マニラ)、 ベトナム(ハイズオン)

コネクタの種類

基板対基板コネクタ (BtoBコネクタ)

プリント基板の接続用に開発されたコネクタの総称でボード・ツー・ボードコネクタ(ボードtoボードコネクタ)とも呼ばれる。垂直接続、平行(スタッキング)接続、水平接続など組み合わせで、さまざまな接続が可能となる。B to B (ビー・ツー・ビー)は、当社の登録商標として市場で広く浸透している。

FPC/FFCコネクタ

FPC基板(Flexible printed circuits)やFFCケーブル(Flexible flat cable)の接続用に開発されたコネクタの総称。コネクタの挿入時に力を加えずにロック可能なZIF(Zero insertion Force)タイプ、挿入したときに力が発生するNON-ZIFタイプがある。

I/Fコネクタ

I/Fとは、インターフェイスの略で、機器間の信号の接続を行うコネクタのことで、I/O(インプット/アウトプット)コネクタとも呼ばれる。カーナビ、PCなどさまざまな機器の側面(裏・表面)に装着され、機器への電源供給、音声・映像信号データなどの入出力を行う。

ピンヘッダー

線材をカット加工した“ピン(電導体)”をハウジング(樹脂材でできた絶縁体)で支えたプラグ(オス側)コネクタの基本形であり、さまざまな分野・機器の内部接続(基板間接続)に使用されている。横から見ると、生け花の花止め“けんざん”のように見えるのが特長。メス側はソケットと呼ばれる。

この資料に記載されております業績の予想数値につきましては、本資料の発表日現在で得られた入手可能な資料に基づいて作成したものであり、今後の様々な要因により予想数値と異なる可能性があります。

当社といたしましては、投資家の皆様にとって重要と考えられるような情報について、その積極的な開示に努めて参りますが、本資料記載の見通しのみに依拠してご判断されることはお控え下さるようお願いいたします。

なお、本資料の利用の結果生じたいかなる損害についても、当社は一切責任を負いません。